第１回「舞鶴らしい協働のまちづくりに向けた市民懇話会」の要旨をご紹介します。

（文責：舞鶴市企画調整課）

開催日：　平成１６年１２月４日（土）午後３時～
開催場所：舞鶴西総合会館４階会議室

会議では、まず、企画管理部長　馬場俊一が、「舞鶴らしい市民と行政の協働を推進していくためには、どのような仕組みを作っていくのが良いのか議論いただき、市に提言いただきたい。」とあいさつを述べました。

次いで、事務局の企画調整係長　福田豊明から懇話会の設置趣旨や今後のスケジュールなどについて、説明や提案を行いました。

続いて、今瀬政司さんが進行役となって、議論が進められました。

議論では、まず委員の皆さんに事前に行ったアンケート結果の紹介からはじまりました。

	１．舞鶴での協働の取り組みについてあなたは何点つけますか？	２．採点された理由を教えてください。	３．これから議論したいことや議論の進め方・方法などにご意見ありましたらご記入ください。
Ａ委員	３０点	自分がこの程度しか関われない。	ペットの飼い主のマナー向上について
Ｂ委員	５０点	市の取り組みイメージが湧かない。 市民への意識の浸透の薄さを減点。	有意義に議論を進めるため、事前にテーマを決め勉強する期間があればと思う。
Ｃ委員 （欠席）	６０点	環境問題や観光等に関しては、市民も関心をもっており、市との協働もよくできているが、子育て支援に関しては、親のニーズを市は汲み取る形になっていない。子育て中の親の中には、発言する人が少ない。発言する場を設けることが必要。また、子育て支援をしているＮＰＯやボランティア団体の意見も十分聞いて欲しい。	市とＮＰＯ，ボランティアグループとの協働のあり方について
Ｄ委員	２０点	どの時点から協働と言うのか理解されていないし、自分も理解していない。	災害ボランティアセンターで感じたことだが、市とボランティアとの間に情報交換の場がなく、ニーズに対応できなかった。 市とボランティア等を取り持つ組織、仕組み、企画作りが必要と思う。
Ｅ委員	９５点	市民へ何でも情報が伝わっている。	講演を拝聴してからとします。
Ｆ委員	？点	大変難しい質問です。	赤煉瓦のあるウォーターフロント構想について
Ｇ委員	６５点	市民と行政のつながりが薄い。	市のまちづくりに何が一番必要か
Ｈ委員 （欠席）	３０点		福祉の問題が山積している。 例えば、送迎車両についても問題有り。
ｉ委員	６９点	一定評価はするが、まちづくりに参加していない、出来ない市民もいる。今後の取り組みや努力次第で１００点に近づくことも可能。	市民の目標と行政の方針とギャップを如何に近づけより多くの市民が「住民満足度日本一」のふるさと舞鶴づくりに関心を持つことができるか議論したい。
Ｊ委員	４０点	今から議論を行い、あり方を問うていく中で点数はつけにくい。１００点を目指すべき。	前回の議論からどのように進展したのか、どのように進めれば協働といえるのか。その辺を確立して議論を進行すべき。
Ｋ委員	７０点	多くの計画策定や議論に市民参加型の委員会等が設けられたり、パブリックコメント手続制度があることやＨＰでの情報公開が充実している等、他市と比べても進んでいる方だ。	特にありません。

次に、アンケートの回答を踏まえて、それぞれのまちづくりへの想いや協働への考え方について語っていただき、議論を進めました。

Ｊ委員
２年前に開催された市制６０周年市民検討委員会の提言の中で、協働について考え方をまとめているので、これを踏まえて議論していくべきだと思う。
事務局
市政６０周年市民懇話委員会からは、具体的な事業というよりも、協働の推進につながる取り組みがいいのではないかという提言をいただいた。その中では、まちへの思いをもっと深められるように、まちの歴史を活かすような取り組み等いくつかの提言をいただいた。
特に協働を深めるための方策について、提言をいただいたが、協働という言葉が浸透するには役立ったと思う。
進行役
今回の議論が３月にまとまった時、次の会議や活動につながるようなものにしていかなければならない。積み上げの議論が大切だと思う。

（次回、２年前の市制６０周年市民検討委員会の提言書を事務局からお配りすることになりました。）

Ｆ委員
全国の協働の事例で「これはすごい」という取り組みを紹介して欲しい。
進行役
熊本の水俣の「地元学」が参考になる。ここでは、自分達の地域のいいところを探そうという“ある物探し”を行っている。もしかしたらそれは宝物かもしれない。それらを調べて地図に落とす。また、自分達の地域の総合計画を作って、それが市の総合計画にも反映されている。
Ｇ委員
私はボランティアで過疎地の一人暮らしの人への手助けをやっている。これからは、老人と子供、若い人との交流をもっと深めたいので、市と一緒になって、どのように取り組んでいけばよいか考えていきたい。
Ａ委員
犬を飼っている人でマナーの悪い人が多い。もっと住民みんなで考えていくべきではないだろうか。マナー向上講座のようなものを開けないか！
Ｄ委員
災害の時、ボランティアセンターに参加し、ニーズをまとめたりした。
その時おかしいなと感じたことは、市役所には、ニーズの情報があるにも関わらず、センターにはその情報が入らなかった。市とボラセンとの情報交換の場があればうま

く機能したのではないかと思う。だから、そういう意味で市民と行政の協力の仕組みの必要性を感じている。

Ｆ委員

舞鶴らしいものといえば、ウォーターフロントや赤煉瓦がある。その活用を市と市民が一緒にやれたらいいと思っている。

進行役

舞鶴らしいということは、ひとり一人の市民が「自分らしい」取り組みを行うことではないだろうか。

協働の仕組み自体は共通のものになるだろうが、やはり個別の分野で生かされるような協働の仕組みを考えていく必要がある。

Ｂ委員

多くの人は、実際には、まちづくりに全く無関心だ。

また、まちづくりについて、市のＨＰで調べようとしてみたが、十分判らなかった。

市民が必要な情報にたどり着けるようにするのが協働の前提だと思う。

市民には、情報が少なく、まちづくりの意識が低い。意識自体を高めていくための仕組み作りも必要だ。

進行役

まちづくりはやってみないとわからない。まちづくりを進めていくには、まず、参加することである。

Ｋ委員

男性陣は、仕事が忙しくいろんな活動に出てこない。でも、忙しい人でも想いは持っているはず。

だからインターネットなどを活用して、いかにその想いを吸い上げるかが課題ではないか。

Ｇ委員

若者と老人のハンディをうめる為の何かをやりたいと思っている。

Ｅ委員

私は、以前は市民に対する市の対応に不満ばかり抱いていたが、今では高い評価をしている。要は、自らで何かを行政に求めていかなければ、与えられるものはないと思う。最近は、まちづくりでの女性の活躍が目立っている。男性は、もっと頑張って欲しい。西市民プラザなどでのマナーが悪く、活動室が閉鎖中。管理人さんも何も言わない。利用者である市民も自分にできることは何か考えるべきだ。声かけくらいしていくことは出来ると思う。

Ｉ委員

農村地域では、自分達のことは自分達でやり、極力、行政の力を借りない気風がある。農村との間で協働できるまちづくりの事業を起したい。これまでやったことのない地域に提案することが大切ではないか。この懇話会で、農村地域のまちづくりのきっかけが探し出せたらありがたい。

進行役
　舞鶴らしい協働のまちづくりについて、今回の出席者の共通事項は何だと思いますか？
Ｄ委員
　過疎地では高齢化が進んでいる。お年寄りと若者との交流が出きたらいいと思う。

Ｆ委員
　まいづる＝岸壁の母＝まちにとって暗いイメージでありがちだが、岸壁の母には、人類共通の普遍的な人間愛、家族愛、母の愛がある。何とか使えないかと考えているが、なかなか思い浮かばない。
Ｅ委員
　これまで、行政が作ってきた社会資源をもっと使っていけないか？その方策を皆で考えよう。
進行役
　次回の懇話会では、「協働のまちづくり」を進めていく上での必要な仕組みや、「舞鶴らしい協働」ってなんだろう、などについて、それぞれの経験や活動の中から思い・考えを述べていただき、その中で共通する事項はないか、を議論していきたいので皆さん、考えてきてください。

次回の開催予定
第２回市民懇話会
　１２月１８日（土）午後１時３０分～
　舞鶴西総合会館４階第一会議室
　※公開で行いますので、市民の皆さまのお越しをお待ちしております。